C.L. information

Vol.52 2015年12月

特集

- ◆ 梅毒感染拡大
- ◆ 機能水の紹介
- ◆ 害虫紹介(コクゾウムシ類)
- ◆ 食中毒情報



梅毒感染拡大

梅毒の特徴

梅毒は、スピロヘータという細菌の一種「梅毒トレポネーマ」が引き起こす 感染症です。

大きさ: 直径 0.1~0.2µm、長さ 6~20µm の螺旋状の菌です。

感染経路:梅毒の大部分は感染者との性行為によって感染します。それ以外では

感染した妊婦の胎盤を通じて胎児に感染する母子感染があります。

潜伏期:一般的に感染後、3~6週間程度とされています。



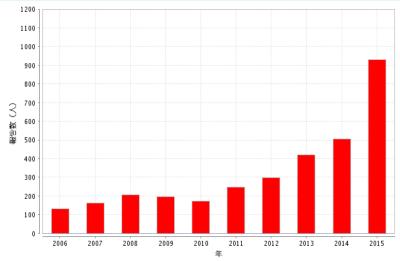
引用: SCIENCE photo LIBRALY

症 状: 感染から 3 週間~3 ヶ月後、感染した箇所に痛みやかゆみを伴わない塊ができます。この塊は多くの場合はすぐに消失します。感染から 3 年後では、全身のリンパ節の腫れや発熱、倦怠感、関節痛などの症状が出る場合があります。また、バラ疹と言う特徴的な全身の発疹が現れることがあります。

梅毒の流行に注意!

日本における梅毒の感染者数は、2010年までは 年間 500 例から 800 例程度で推移していましたが、 2010年頃から年々増加の一途をたどっています。 特に、2015年は9月時点で 2014年一年の報告数 を上回り感染者が急増しています。

感染者を男女別にみると、男性の感染者は前年から約1.4倍の増加でしたが、女性の感染者は前年から約2倍も増加しました。なかでも20~24歳の女性は、前年同期と比べて約2.7倍と増加の幅が顕著になっています。今まで梅毒感染者の8割は男性



東京都梅毒感染者数の推移 (引用:東京都感染症情報センター)

でしたが、近年女性が感染するケースも増えているため注意が必要です。

梅毒の予防と対策

★避妊具の使用

梅毒感染予防の第一歩はコンドームの使用です。コンドームは梅毒だけでなく、HIV やその他の性感染症予防においても非常に効果的です。しかし、コンドームを着用しても口や傷口からの菌の浸入が考えられるため、その点には注意が必要です。また、リスクの高い不特定多数との性的接触を避けることも重要です。

★病院の受診・検査の実施

自覚症状がある場合は、早めに病院を受診して治療を受けてください。梅毒はペニシリン剤を服用して治療するのが一般的です。梅毒に感染していても自覚症状が出ない場合もあるため、検査を受け、感染の有無を確認しておくことも大切です。その際はパートナーも一緒に検査を受けることをおすすめします。

機能水の紹介

みなさん「機能水」をご存知でしょうか?聞きなれない言葉かもしれません。しかし、「水素水」や「アルカリイオン水」、「電解水」なら聞いたことがあるのではないでしょうか。実は、これらは機能水の中の一つです。機能水とは、「人為的な処理によって再現性のある有用な機能を獲得した水溶液の中で、処理と機能に関して科学的根拠が明らかにされたもの、および明らかにされようとしているもの」のことです。2002年に学会も設立され、研究が進められています。

機能水の種類

「○○の効果がある特殊な水」と謳われている商品が多くあります。その中で、科学的根拠が明らかにされているかどうかを下記の表で分類し、一部利用が進んでいるものを紹介させていただきます。

公認済み	研究が進められている	科学的根拠が不十分
電解水	水素水	波動水
(酸性電解水、電解次亜水、アルカ	ファインバブル水	赤外線処理水
リ電解水)	(マイクロバブル水、ナノバブル水)	磁気処理水
アルカリイオン水	海洋深層水	音波処理水
オゾン水		セラミック処理水
亜臨界水・超臨界水		など

このように、市販されている商品の全てが公認されているわけではなく、機能が明らかにされつつあるが研究 途上のものや、科学的根拠が不十分と判断されているものも多くあります。

電解水

機能水の中で、既に多くの 場面で利用されているもの が電解水です。水・食塩水・ 塩酸水を電気分解して作ら れる機能水です。右の表の ように、作り方によって強 酸性〜強アルカリ性の様々 な種類の電解水の作り分け が可能です。

電解水の種類)				_	
電解水	電解槽/生成極	被電解液	pH	有効塩素 (mg/kg)	認可状況
強酸性電解水 (強酸性次亜塩素酸水)	二室型/陽極	NaCl水(<0.2%)	2.2~2.7	20~60	医療機器(手術時手洗·內視鏡消毒) 食品添加物(殺菌料),特定防除資材
弱酸性電解水 (弱酸性次亜塩素酸水)	二室型	NaCl/x(<0.2%)	2.7~5	10~60	食品添加物(殺菌料)
微酸性電解水 (微酸性次重塩素酸水)	一室型	塩酸水 塩酸/NaCl混合水	5~6.5 5~6.5	10~30 50~80	食品添加物(殺菌科),特定防除資材 食品添加物(殺菌料)
電解次亜水	一室型	NaCl水(<0.2%)	>7.5	30~200	食品添加物(殺菌料)
強アルカリ性電解水	二室·三室型/陰極	NaCl/k(<0.2%)	11~11.5	4	希薄な水酸化ナトリウムと同等性

引用:機能水研究振興財団

トイレの洗浄殺菌に使用されているのも電解水なので、実は既に皆さん使用されているかもしれません。 その他、食品や医療器具の殺菌剤にも活用されています。

アルカリイオン水

市販されているアルカリイオン整水器(家庭用電解水生成器)で飲用水を電気分解して作られる飲用電解水の 通称です。この整水器は家庭用医療機器にあたります。人体の効能に関して、厳密な臨床試験が実施されており、 慢性下痢、消化不良、胃腸内異常発酵、胃酸過多、便秘などの胃腸症状に対して改善効果が認められています。

害虫紹介

コクゾウムシ類

貯蔵してある米や小麦などの穀類から発生する昆虫にコクゾウムシ類がいます。一般家庭の他、食品工場や飲食店においても貯蔵米から発生して問題となることが多い害虫です。ご家庭の米びつ内で繁殖し、困られた方もいらっしゃるのではないでしょうか?

生態

代表的な種としてコクゾウムシ、ココクゾウムシ、グラナリアコクゾウムシの3種が挙げられ、中でもコクゾウムシは全国に分布している主要な種です。体色は赤褐色~黒褐色、体長は成虫で2~4mm程で、長い口吻を使って穀粒に穿孔し、中に卵を産み付けます。孵化した幼虫はイモムシ型で、穀粒を食べながらその中で育ち、気温25度程の環境では約1カ月で蛹を経て成虫になります。屋外では3月~10月に発生しますが、室温の保たれている屋内では年間を通じて発生します。



図 コクゾウムシ属 Sitophilus (公益社団法人日本ペストコントロール協会)

被害

成虫、幼虫ともに米、小麦、大麦、トウモロコシなどイネ科の穀類を食害する為、貯穀に直接的な被害を与えます。コクゾウムシの発生した穀類は異物混入の原因になる為、使用することが難しくなります。また、稀にコクゾウムシの混入した穀類を食べてアレルギー症状を起こす例が知られています。穀類を長期間保存していると大量に発生することがあり、不快感を与える場合もあります。

対策

エアゾール剤で殺虫することが出来ますが、食用の穀物に直接薬剤を噴霧するのは現実的ではない為、発生予防が主な対策になります。穀類を長期間保存しないようにし、こぼれたものを放置せず、清掃をこまめにしましょう。気温 15 度以下になると成虫の活動が停止するので、穀類を低温で密閉保存すると効果的です。また、殺虫成分の含まれない忌避剤を使用することで侵入の軽減が可能です。コクゾウムシの発生した穀類はすぐに廃棄して、被害が拡大しないようにすることが重要です。

食中毒情報

今月は、患者数の9割以上がノロウイルスが原因となっており数百名の患者が出る大規模食中毒も発生していました。そのうちの多くがウイルスを保有した従事者が原因と考えられています。また、秋田県では、給食調理員からノロウイルスが検出され、一時的に給食業務停止が実施されていました。幸い、症状を訴えた児童・生徒は無く、未然に防ぐことが出来ていました。このように、ウイルス保有者を原因とした食中毒を防ぐには、日常の健康チェック、定期的なノロウイルス検査、徹底した手洗いなどを組み合わせた管理が必要です。最近では、ノロウイルスの定期検査を実施する事業所が増えています。どのような頻度や内容で検査を実施すれば良いか分からないなど疑問があれば、お気軽にご相談ください。

全国食中毒発生状況 (11/16~12/14 新聞発表分)

• / -	, , , , ,	
原因物質	事例	感染者数
ノロウイルス	14	1175
アニサキス	3	3
ウエルシュ菌	2	58
黄色ブドウ球菌	1	33
不明・その他	3	35

株式会社コントロール・ラボ

本 社 〒651-1211 神戸市北区小倉台7-1-7 阪神事業部 〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町2-4-15 東京営業所 〒194-0004 東京都町田市鶴間424-1-402 福岡営業所 〒816-0921 福岡県大野城市仲畑1-6-15-A棟3 フリータブイヤル

000.0120-540-643

URL http://controllabo.co.jp

TEL: 078-582-3575 FAX: 078-582-3576 TEL: 078-858-6801 FAX: 078-858-6802 TEL: 042-799-5270 FAX: 042-850-6456 TEL: 092-575-0630 FAX: 092-586-6321



